

ある日の育児日記から

(65)

佐藤 和代



圭の卒園文集が届きました。アルバムを兼ねた文集で、ひとりひとりの写真と、六年間の園生活の写真、こどもの絵、先生からのメッセージ、親からのメッセージなどがはいったものです。最近我が家では、これがみんなの愛読書。

圭のページだけでなく、ほかの子のページも本当に楽しい。だって、赤ちゃんのときからずっと一緒に仲間です。あ、あのお母さんこんなこと書いてる、あの子はこの頃こんな顔してたわね、と、何度読んでも飽きないのです。

考えてみれば、こんなにいろいろな人と親しく

なれる場なんて、保育園以外なかったな。職業も環境も本当にバラエティ豊かだったし、みんな小さい子をかかえて働いている立場ですから、困ったときは子どもを預けたい、相談したい、たまには宴会もして。

残念ながら同じ小学校へいく子はいないので、圭はいつか保育園仲間を忘れてしまうかな。この六年で友達を得たのは、圭より私の方かもしれない。子どもがいなければ、とてもこんな親密なつ

きあいではできなかった人ばかり。圭と保育園に感謝です。だいたい家の中がぐしよぐしよでも「掃除するひまなかった、ごめん！」ですませられる相手なんて保育園仲間くらいですもん。

